

【出席/写真前列】

片岡 和男氏

浄土真宗本願寺派 僧侶 第15期 広報委員会委員長

【出席/写真後列】

多田とし子 氏

ワーク・アイ 代表 第11~12期 広報委員会担当事務局員

か

5 L 活

な

13

لح

ば

か こま,

り

で

しす。

な

が

できるか不安で

よろしくお願

します

きま

た

が

今で

b

だまだ

報

動、

委員

会活

を 持

L

7

ろん います。

な思

13

0

動を

7

岡 義博氏

岡義博法律事務所 所長 第25~26期 広報委員会委員長

髙安 富男氏

(株)共生 代表取締役社長 第7~10期 広報委員会担当事務局員

中本 隆夫 氏

第27~29期 広報委員会委員長

宮下 幸雄氏

香川同友会事務局 局長 第34~37期 広報委員会担当事務局員

田中 一成氏

(有)田中折箱店 代表取締役 第30~32期 広報委員会委員長

松田 哲也 氏

松田哲也税理士事務所 所長 第43期~ 広報,情報化委員会担当副代表理事

亮氏 春田

(株)マック 代表取締役 第36~39期 広報委員会委員長

【司会】

渡辺功一郎 氏

ダイレクト(株) 代表取締役 第40期~ 広報·情報化委員会委員長

17

成

成31年3月号で翌った香川同友会数

が 知 ま 54

つ

54

年

7

月

0

1

号

同第

機

5

0号を迎えることに

な

ħ までを振り返 つ

田 み か 皆 春 い 中 に せ さ 田 だ ね ただきた てこ まず 今日 か 13 5 ただけ れ いと思 最 ま 1 は こでを 初 ろ 思 に自 Ĺ ることを 11 なお 13 振 出 ます ŋ 己 話 話 返 紹 な 楽 を つ 介 聞

情報: 報委員 することなどを語って これを記⁴ び わしへの つ た か 関 た経 ら話 化 を だ わった皆さんに 始 委員会に 会 き、 緯や苦労話 め、 (第 せるエ 感 機 想、 現 42 関 期 (在 変 誌 **今** Ľ 更 ょ O制 ソ 後 Iなど、 歴 N 作 に 同 委 お 代 広 ド 期 友 に 集 員 O報 待か 今 携 長 \mathcal{O} 1)

だ

出本 私と広報委員長になったのがの素人の私が広報委員長になったのがの高さんからバトンタッチして、全くの岡さんからバトンタッチして、全くかけではなく、今日ご出席の元委員長りですが、広報委員会との最初の関わ

16期~

18期) だった

瑞田

信弘さんが委員

間

後でした。入会後は政策企画委員会(第一一方会入会は10周年が終わった直いたというのが私の経緯です。いたというのが私の経緯です。な気持ちではなかったのですが、参員長を引き受けた当初、正直前向委員長を引き受けた当初、正直前向

岡 同友会入会は10周年が終わった直 3 同友会入会は10周年が終わった直 3 同友会入会は10周年が終わった直 6 同友会入会は10周年が終わった直 6 同友会入会は10周年が終わった直 6 同友会入会は10周年が終わった直 6 同友会入会は10周年が終わった直

今でも全国から機関誌が届いていると思いますが、香川同友でも秀でており、そういう意味で勉強させてもらったというのが一番の思い出です。か一番の思い出です。かく何かの委員会に所属しなければならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればならないということで、わればない。

もわからず広報委員会に入り

各支部、各委員会は 各支部、各委員会の活動や同友会全体の動きなどがわかる委員会だったので、同友会を理解するにはいい委員会だと当時は思っていました。 その間、20周年直前に全国広報交流ました。

す。それが連綿と続いて今日500号体験をさせてもらったと思っていまが、2000名会員を目指して香川同が、2000名会員を目指して香川同が、1000名会員を目指して香川同が、1000年では、機関誌の内容の刷新やト

高安 昭和57年に2代目事務局長としり難く思うと同時に感謝しています。 くしては達成できなかったことです。 が取りとそれに携わる人たちの協力な が取りとそれに携わる人たちの協力な

んでしたので、本当に素晴らしになるとは夢にも思っていませですから、今日のような状態



ど、連れ添って今日まで来たと 労されている姿もずっと拝見し ために瑞田さんや片岡さん 多 皆さんと一緒に取材に行くな てきました。以来、広報委員の の全国広報交流会の 流会に参加したり、 わっており、福島の全国 いことだと感じています。 いう感じです。 員として機関誌 第三種郵便物認可の取 安さんと同 翌年 づくり . 時期 お手伝の坂 広 13 が苦 得伝のい 事 出 交

思います。 く、皆さんの努力が実って良くなって たなというのが実感ですが、一番嬉し 集まらず新聞発刊に四苦八苦していた 聞づくりに携わっていた頃は、 の頑張りには頭が下がります。私が新 きていることです。今の委員の皆さん のですが、その時代から考えると、充実 いのは活動がしぼんでいくのではな た素晴らしい広報委員会になったと 振り返るとずいぶん長い間 歩い 原稿が てき

宮下 発行 重 くは関わっていませんでしたが、毎月 かったことを覚えています。 っという間にやってきて、気持ち の『同友かがわ』の 広報委員会自体にはそんなに長 原稿締 切 ŋ が が

ことが結構多く、何とか広報委員の皆 さんに書いてもらうよういろいろと考 |時は事務局が代わって原稿を書く

自ら手を挙げてさせて



あ のに 員 えたりしました。そんなときに、広報 発刊だけでなく、 押し寄せてきました。広報は機関紙(会として広報の情報化の波が全国的なりしました。そんなときに、広報委 るということで、IT化に取り組み、 情報発信が重要で

以来10年間のほとんどが経営労働委員せていただいていますが、同友会入会け止めています。 会を中心に携わってきました。

り、 え、 対応 今年度から同友会らし た。そういう経験から、 年ほど広報の仕事をしてお い広報を学びたいと考 担当副代表理事を 社内報の編集や報道 などをしていまし

もらっています。

ことですが、皆さんのお話を今 どうぞよろしくお願いします。 ただきたいと思っています。 の委員会活動の参考にさせて 今日は、500号記 念と 61

時代と共に変わった機関誌

ましたか。 可に関しては、どのような苦労があり ていったようですが、第三種郵便 取 得等、 り、その後の第三種郵 0) た。皆さんのお話から、機関 司 形式が新聞から小冊 会 時代と共に少しずつ変化 ありがとうござい 便 物認 子に まし 物認 誌 可

0

片岡 らないということで認可に向けての取いて、機関誌発送の郵送費がばかにな 当時、 会員数がどんどん 増 えて



です。り組みを始めたのが最初のとっかかり

と思っていました。ですから、調べれば あります。 誌面づくりにずいぶん苦労した記憶が 調べるほどいろんな壁にぶつかって、 うにか認可をもらおうと知恵を絞 らないほど格安だったので、これ たので申請すれば簡単に取れるものだ んな規制があることを誰も知らなかっ わけです。ただ、第三種郵便物にはいろ 調べると普 郵 便とは 比 b 0 った はど 13

> 司 会

表紙のデザイン

当時としてはとてもお洒落

多田 たしかにしばらくは苦労しましたが、今思うと郵送費が安くなればという発想で第三種郵便物認可に取り組んだにも関わらず、モノクロの新聞からいきなりカラーの小冊子に形態が変らいきなりカラーの小冊子に形態が変わるというのに予算の話など一切出ませんでしたよね。大らかな時代だったなと思います。

だと思います。 高安 余裕があったん切なかったです。 費のことについては一

こ。 高安 会員でやっていたのですが、三 がら誌面構成が一新しました。それま がら誌面構成が一新しました。それま だった三宅剛さんが広報委員になって だった三宅剛さんが広報委員になって だったと思いますが。

片岡 プロのデザイナーが入ることに よって体裁が大きく変わったのをきっ よって体裁が大きく変わったのをきっ

というか、そんなところが目標があったので取り組む目標があったので取り組む

ありました。

思います。

ただ、一番苦労したのはただ、一番苦労したの

苦労することはあまりなかったように てもそれに対する具体的な協力が得ら でもそれに対する具体的な協力が得ら で回っていくようになっています。 にお願いしましょうとか、そういうふ にお願いしましょうとか、そういうふ で回っていくようになっていたこと と、支部の広報委員を通しています。 出してもらっていたので、記事集めに 出してもらっていたので、記事集めに と、支部の広報委員を通しています。

では、時代がA4主流になったからたのは、時代がA4主流になったからないと思うのですが、抵抗感はあまりないったような記憶があります。 田中 高齢の会員さんから文字が小さくて読みづらいと指摘されたこともあります。









けるようにしているんだ」と

明してもらったことがあ

剥がして折り

畳んで持ち歩

中でそこだけ色が

違

体からから

色で、

なぜそ

れ

というと、「これを本体

ないので、もう少し考えてくださいと 差し戻されました。 案したところ、いま一つ意味がわから 業者に出してもらい、代表理事会で提 にしょうということで、 見積 もり等を

います。 わってきて、ホッとしたことを覚えて Α から読みやすくなったという声が伝 そんなこともあったのですが、ただ 4版になってからは、周囲 の人たち

す。 かあったことと、忘れられないのが岡ん中あたりに黄色のページが何ページ 春田 島 さん始め何人かのメンバーと一 (n) 中あたりに黄色のページが何ペー 全国 今もよく覚えています。 本の 広報交流会に参加 体裁 の話 で すが、冊子 したことで 緒に福 0) 真

多田

頃に委員会が活発になったなと感じて

田中さん、春田さんが委員長の

7 います。 田 いたと思うのですが、 色 いページがあったのは 当時の たぶん、第三種郵便物に 『同友かがわ』の真ん スケジュー 私も覚えて に関わっ 中に ル

> 宫 下 していたので大変でし それを事務局 で 作 成

があるためにページ割にはります。ただ、真ん中にそれ

苦労しました。

た。その作業が事務局から離れたので、 事予定も作成していたので、 今はとても楽になりました。 べれる資料も全て事務局が担当し、行 は袋詰めから発送、中に 4日はその作業にかかりきりでし 毎月末の

入

の勉強会もしました。 支部の広報委員の方たちの文章力アッ に大変でした。そのときに感じたのが 全ての文章に目を通していたので本当 プの必要性です。それで、「支部だより」 田 大変だったのが本文の校正です。

会のメン 出本 私の たの じメンバーで活動 ずっと固定してい メンバーが 私の頃は委員 長い間同

> す。 充実 がってくるように感じたときがありま うにしていましたが、「支部だより」を てもらい、 委員会に支部 していくと、支部 委員会に出席してもらうよ の広 報委員 のレベルも上 も必ず登

ようにしていました。そうでないと、 部 の委員 の活動状況が掴めないからです。 私 0 が 方が広報委員会に登録する 委員 長になった頃には、 支

ても、 には れている会 もおられる るでしょう。なか 頼りの会員もおられ 員もいれば、 発に活動さ と思います。活 < 『同友かがわ』だけが りは いずれにし 無関心の方 記事づ 大変だ



識で作っていたと思います。いうよりは、会内の会員向けという意ていって同友会のPRになるだろうと例 私の頃は、『同友かがわ』が外に出

いました。のでしょうが、きちんと読んでもらえのでしょうが、きちんと読んでもらえいう視点でした。作り手の思いは入るいすから、どう読んでもらえるかと

中同協 田さんが専門家なので彼を中心に取り ちが担当しました。こういう経験 回 ターネットでの広報に力を入れ出した るといろんな意味で強くなります。 一みを考えました。紙媒体以 中同協定時総会では記 平成2年に香川県で開 私が委員長をしていた頃にIT化 で、e.doyu等の議論 |当しました。こういう経験があにでしたが、記事の一部分は私た 鼠録集の発刊は開催された第22 が深まり、 外にイン 春 0)

一連の流れの変化を可会 髙安さんは、ように思います。

か。

どう受け

一めていま

た方のところに持参していました。報告を文章化して、報告していただい事が少なかったので、講演会のは同友会そのものに行

当時、講演録をお届けするような団体は他になかったので、とても喜ばれ体は他になかったので、広報で最も皆さんに伝えなければならないのは、トに伝えなければならないのは、トににたななければならないのは、トににたなが、どうでしょうか。何を伝えるかはやはり難しい気がします。

ることが

多田 切り口ではないでしょうか。同 とかったと思います。なぜ市長になっ の基調講演で高松市長の講演はとても がったと思います。なぜ市長になっ なかったと思います。なぜ市長になっ なかとかをストレートに語っていただ なかとかをストレートに語っていただ ながとかをストレートに語っていただ いて、今まで聞いたことのなかったお 話でした。

#をするときにテーマとして投げかけのをしっかりと捉えて、それを講演依同友会ならではの切り口みたいなも

味はひかないので切り口、捉え方をどこででも聞ける話は興す。

っかり踏まえて講演依頼をすること

んだろうと思います。 引き受けていたデザイナーの三宅剛さたぶん広報委員で誌面づくりを一手に はなり、 先ほども少しお話しましたが、

後編 (23ページ) に続く





『同友かがわ』で記憶に残る出来事は

面

片岡 したが、広報委員の特権というか、役得 はありますか。 は普通なら会えないような人に会える 加して、とくに記憶に残るような出 いろんなところに取材に行きま 『同友かがわ』の誌面づくりに参 一来事

ことがたくさんありました。 とてもいい委員会だと思います。 ろんなことを話してくれたので、教わる インタビューの相手の方も気軽に 13

ずっと続けてもらったので、私たちは楽 ンタビュアーをやってもらいました。委 春田 虫本さんにはずいぶん長い間 をさせてもらいました。 員長を辞めてからもインタビューは イ

よということで続けました。 虫本 インタビューだけは協力します

とで、時々ご一緒させてもらっていまし 春田 虫本さんのインタビューに て行って勉強させてもらおうというこ 付

すことがたくさんあります。 を伺うと、ああそうだったのかと思い返 ておられる方が多いので、こうしてお話 広報委員会の皆さんは息長く活 動 1

がわからなかったのですが、あるとき誌 う話をよくしていました。 報委員の皆で誌面をどうしょうかとい 全く経験のなかった私にはその内 私が委員会に参加したときは、広 容

> ら何もわからないまま退会していたか 報委員会に入ってなければ、もしかした とがわかって、それから同友会理念につ もしれません。 いて真剣に考えるようになりました。広 いるかどうかで判断するんだというこ づくりの基準は同友会にマッチして

ばいいのではないかと思います。 皆さんがやりたいことを企画してい 上で、いろんな発想をして、メンバーの 広報委員会で基準さえしっかり守った 納得してもらえるものは作れないので、 繰り返しますが、 機関紙は万人に け

ば、創業者の方もいて、年代層が幅広い が、月ごとにターゲットを変えるのも ので的を絞るのは難しいかと思います つけるかでしょうね。若い経営者もいれ けにはいきませんが、どこで折り合いを ようなトレンドと同友会理念を外すわ もちろん、それぞれの時代に適合し た

の印象はいかがですか。 したか。それから、現在の『同友かがわ』 司会 岡さんの時代の判断基準は何で つの手法かもしれませんね。

心に、機関誌で会員が学ぶところがあれ 本の筋はきちんと通しておくべきです。 ば、同友会に入った意味があるように思 います。ですから、同友会理念という一 どういう切り口であっても、同友会の やはり同友会理念ですね。理念を中

学べる工夫をしなければなりませんが、 理念を通して、古い会員も新しい会員も

理念のスタイルという意味では一本通 していたような気がします。

らって学んでもらって、経営の役に立て 中身はとてもよくなっていると思うの 読んでもらわないと意味がありません。 ているように思いますが。 ん努力されて今はそういう中身になっ てもらうことが大事だと思います。皆さ で、できるだけ読みやすく、読んでも 『同友かがわ』ですが、どちらにしても

たか。 司会 そのための工夫はされていまし

やれば読んでもらえるだろうというと ころまでいけたかどうかはわかりませ 意識はありましたが、具体的にこう

を取って、それを誌面づくりに生かして 上でのリニューアルだったので、中同協 でいた時代でした。 ですから、アンケートには結構力を注い から評価されて福島に行ったわけです。 いたと思います。皆さんの意見を聞いた 田中さんなどはよくアンケート

を載せたら見てもらえる 持っているのだろうか、何 載せてほしい」という回答が り、「もっと興味のあるものを えました。編集長時代でしたが、目玉 よくあって、何に興味を 白くない」という意見があった の『ホットメッセージ』が「最近は面 田中 ただアンケートの結果には頭を抱

> た。機関誌が で見ていまし えて、夢にま ど、考えて考

のだろうか

ゴミ箱に捨てら

れる夢をよく見ま

んなコーナーの企画をしました。 上げることと、明確な意図をもっていろ 果を参考にできるだけ身近な人を取 たが、内容に関しては、アンケートの結 した。あの頃が一番辛い時期でした。 試行錯誤の日々がしばらく続きまし 'n

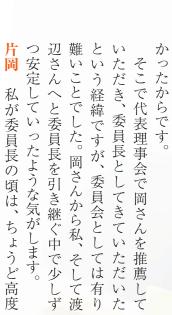
今でもその姿勢は変わっていないと思 内容にすることを心がけてきましたが、 います。 以来、読んでくれた会員が理解できる

> に委員長として会の基準に合う人がいな 員長に招聘されたかというと、その当時

策企画委員会から広報委 す。岡さんがなぜ政

期待すること 広報委員会と『同友かがわ』に思うこと、

広報委員会の低迷期が長く続いた



成長期の最中で、同友会全体が活気に満 ちていて会員が無条件に増えていくと いうような時代背景がありました。 そんな時代ですから、深刻に経営 を考えている人は少なかった と思います。やれば儲かる、 すれば儲かるみたいな時代 だったので、理念はもちろ ん大事だったと思うので









すね。 れと皆がそっぽを向くんで そんな固い話はやめてく すが、その話を始めると、

ので、自由に意見を言い合える雰囲気が の大小など関係なく、 いました。会歴や年齢、企業規模 ありました。 し合おうというムードをつくっていた 広報委員会ものんびりして 同レベルで話

懸命に読んでいましたから、とてもプラ る機会が増えました。届いた原稿を一生 携わったお陰で、同友会のことを勉強す スになったと思います。 広報委員長として機関誌の発刊に

うのがなかなか難しい時期です。 まってしまって新しいことをするとい が、会社もそうですが、創業から43年と いうと成熟していろんなことが大体決 香川同友会は第43期になっています

皆がワクワクしているような時代でし んなことをしようという発想があって、 企画委員会でもこんなことをしよう、あ かもが非常に楽しく、所属していた政策 第11期なので、完成にはほど遠い時期で 私が同友会に入ったのは昭和61 何もかもが途中だったので、何も 年の

ので、新しいことをという機運はあまり た。その頃にはほぼ落ち着いてきていた 関わったのが入会15年後の第25期でし 広報委員会に入って『同友かがわ』に

> 片岡 が、よろしくお願いします。 う思いがあります。大変だと思います な冊子を作り続けていただいたらとい れを読むと同友会がわかるというよう なく、同友会理念を貫いてもらって、こ 会員同士の交流の場としての機

多田 たように思います。 いう、振り返るとそれをずっと追ってき ているのか。どっちに向いているのかと きそのときに、中同協が何をしようとし の制作に関わってきたのですが、そのと 関誌であってもいいように思います。 仕事絡みで長い間『同友かがわ』

入れているんだ うことに力を 協は今、こうい があって、中同 見えてくるもの 、機関誌を

わってきたことで

『同友かがわ』に

携

を機関誌の流れで読み取ること み、歩みがどうなっているのか 友会のやっていること、 りました。中同 みも見えてくるも 読むと香川 同 協と香川 友会 0) があ

いていくことだろうと思います。 れませんが、それはこれからもずっと続 難かったことですし、無意識かもし が私は出来ました。それはとても有

多田 取り組んでいる姿に感動しています。今 を発揮し、力を出し惜しみすることなく の形で突っ走ってください。 実して、才能のある方がそれぞれの個性 広報・情報化委員会がとても充 今後に期待することは。

の方の苦労は一般の会員の方には伝わ 残念ながら広報・情報化委員会

り難 いと思います。



25

さんの努力の賜だと思います。くとはほんとに不思議です。おそらく皆です。紙媒体の機関誌がこんなに長く続500号まで続くなんて考えられない

高安 中同協から送られてくる『中小企 高安 中同協から送られています。変 れられているからだろうと思います。 を るのは、常に同友会の真髄のところに触 で、私はもちろん多くの人に読まれてい るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところ。 で、私はもちろん多くの人に読まれてい るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 るのは、常に同友会の真髄のところに触 ないことにも意味があるように思 からないことにも意味があるように思

ら、 虫本 取組みをしてきました。中身に関しては 守るんだという信念をもっていろんな やってきたつもりです。予算面をはじ と考えました。それをずっと意識して をいかにアピールするかが仕事だろう 割は理事会や常任理事会で広報委員会 員長という自覚をしていました。ですか 心強い委員がいて、それぞ 委員長を引き受けたときに、 何事に対しても自分は広報委員会を 広報に . 関しては素人で雇 私の役 われ 委

れに役割を果たしてくれいたので、中身の問題でいっても出席するのは委いっても出席するのは委のので、中身の問題でいっても出席するのはる。

くここまでと感心しています。本当によが増え、今日に至っています。本当によた。そこから少しずつ参加するメンバーけで、そんな状態がずっと続いていまし

張ってください。
機関誌の『同友かがわ』は、広報・情報化委員会の皆さんには思うようにまたければいいわけです。思う存分やってながないというのが本音でなってくれたらいいというのが本音でなださいというのが本音でなががわ』は、広報・情機関誌の『同友かがわ』は、広報・情

会で育ててもらったような気がします。会で育ててもらったような気がします。かりませんが、少しずつですが、この委員してきましたが、成長したかどうかはわ春田 今までずっといろんなことを経験

体験でいろんなことを学びました。悲しなが楽しいと思ってくれる委員会になった、委員が集まってくれることを最重要ら、委員が集まってくれることを最重要ら、委員が集まってくれることを最重要んが楽しいと思ってくれる

ただ私としては、『楽しい=学べる委員

いうのが私の願いです。
とこればその上に『楽しい委員会』であればとます。今後、広報を進めていく上で一番大ます。今後、広報を進めていく上で一番大ます。今後、広報を進めていく上で一番大ます。でではしいと思います。そしてできましたし、渡いがのが私の願いです。

宮下 私の知らない時代から今日まで宮下 私の知らない時代から今日まで さものではないかと 思い起こすものがの話をお聞きして、思い起こすものがのが、その文章の中から染み出してくる、経営の匂いがしないのではないかななどが、その文章の中から染み出してくる、経営の切いがしないがわ』に対してなどが、その文章の中から染み出してくる、経営の切いがと思います。

くるのが大切なような気がします。ですをきちんと伝えるような文章を出してとたが、文章の上手下手というよりも、

から、一つひとつの文章のから、一つひとつの文章の中で自分が感じた学びをりな記事をこのまま載せていけば、全く問題はなく、感じる人はその文章の中から同友会を感じ、経営を感じるというような冊を感じるというような冊



はないかと思います。 えのあるものになるので

誌になっていくと思います。ぜひご協力 ただければ、ますますレベルの高い機関 きているので、そこのところを詰めてい 会のメンバーは充実して ようなものであればと思 ので、そこで見てくれた人 います。広報・情報化委員 が同友会を感じてくれる く、会外にも配布している とくに、会内だけでな

司会 よろしくお願いします。 ご挨拶をお願いします。 では最後に松田さんから感想と

うことで、その中で同友会理念は外すこ 松田 とができないというご意見もありまし 500号まで続くとは思わなかったと くなるのではないかという危惧があり、 申し上げます。ありがとうございます。 ただいたこ意見について改めてお礼を ではないかと思います。先輩方々からい 念掲載のためだけのものではなく、私も ベテラン会員までが読まれる内容とい いうお話がありましたが、新入会員から ては、同友会らしい学びの場ができたの 含めて参加した広報・情報化委員にとっ 片岡さんからは、IT化で紙媒体がな 本日のこの座談会は、500号記

対等だからという自由な発想で記事を また、堅苦しくなく、同友会はみんな

わ」が同友会

ういった

した。そ

意味でも

同友かが

話もありま たというお



ます。

皆さんのお話

から一

がっていくような気がし の中での仲間づくりに

私は感じました。 という役割があるのではないかと、今日 を保って、組織の持続的成長に貢献する るというお話を聞いて、広報の役割を改 よって同友会との繋がりが保たれてい ただきました。それから、届くことに 体ならではの温もりだというお話もい が郵送で届くことについて、これは紙媒 バイスもいただきました。『同友かがわ』 めて考えました。やはり、人との繋がり いたらいいのではないかというアド

果、やはり仲間のことを知りたいんだと 下がった時期があり理由を分析した結 の「ホットメッセージ」の人気が一時期 いうことがわかっ そんな中、アンケートでトップページ

> 学びになりました。今日のこの学びを ビシと伝わってきました。私自身もいい 機関誌を作るんだという心意気がビシ がとうございました。 頑張っていこうと思います。今日はあり 500号から600号に繋がるように

広報で、みんなに読まれる 囲が何と言おうと、広報は 対する意地と情熱です。 いただいたことは、広報に 強く感じたこと、学ばせて

司会 ではこれで座談会を終わらせて

